

2000年 全国盲導犬普及キャンペーン

デュエット *Duet* 2000.4

第9号

GUIDE DOG MAGAZINE

盲導犬
NOW

盲導犬の「いま」を
徹底検証。



© Master Foods

もっと、盲導犬を。

あなたの愛が、明日の盲導犬を育てます。

1頭でも多くの盲導犬を、1人でも多くのご支援で。

日本全国に盲導犬を育成する非営利の社会福祉法人は、現在約100団体、約1000人

それに伴って、盲導犬はわずか数百頭あまりです。

盲導犬の育成は主に寄付や協賛で。

募集によって支えられている身、財源が不安定です。

盲導犬1頭を育てるためには、多額の費用が必要なのです。

ペディグリー・ナチュラは、全国の盲導犬育成施設の

活動を支える「全国盲導犬基金」を積極的に

バックアップします。1人でも多くの皆さまの

ご支援をお願いいたします。



新発売! 栄養 トーフアリーダー推奨!



Duet

2000年4月発行 編集人 丸根三紀枝 全国盲導犬施設連合会発行
〒151-0071 東京都渋谷区本町1-21-1508小株ビル8F (財)日本盲導犬協会内
TEL.03-3375-6285 FAX.03-3375-6390

盲導犬に関する 調査レポート



本調査は1998年11月に実施され、1999年3月にまとめられた。
日本財団「盲導犬に関する調査」結果報告書を中心に
内容を抜粋して作成しました。
調査は全国の盲導犬ユーザー（盲導犬使用者）、
元盲導犬ユーザー、盲導犬使用希望者、視覚障害者、
盲導犬訓練施設、盲導犬訓練士を対象に行われました。

調査概要
●調査サンプル数/合計 2,568
●調査実施期間/1998年11月
●調査主体/日本財団

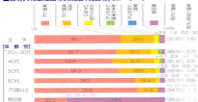
21世紀を迎える、 人と盲導犬は…。

2000年という節目の年、かつて美しい夢に彩られていた「千禧紀」は、もう現実です。けれど、私たちを取り巻く環境は、美しいばかりのものではありません。国際関係、原子力や地球環境の問題、増え続ける犯罪などなど、いろいろな不安があります。もちろん不安ばかりではなく、若い世代のインターネット意識の芽生えなど、希望にあふれた話題も少なくはありません。どうシニアの「掛けあひ心」は、きつと、さまざまな問題を解決するいちばん大切なものだと感じます。盲導犬育成の原点もそこにあります。困っている人がいるから協力するという素朴な心が世の中に広まれば、たんなるに「掛けあひ心」で済んで、掛けあひ心に根ざした盲導犬がいまどんな状況にあふれるか、今回初めて全国規模によるきわめて意義深い調査が実施されました。その報告書から抜粋して「盲導犬のいま」を二語合します。すばらしい「千禧紀」を実現するためのひとつのヒントになればしあわせです。

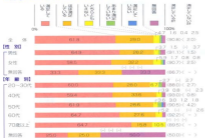
盲導犬と暮らしてよかった。

盲導犬を希望した理由の実現度は高く、現盲導犬ユーザーが8割以上、元盲導犬ユーザーが約6割。また現盲導犬ユーザーの盲導犬との生活に対する満足度も8割以上が「満足している」という結果になりました。盲導犬の訓練担当者も日々高まり盲導犬のレベルも上がっているためもあるかもしれませんが、やはり大きな理由は自由に歩けることや調査項目には出ていませんが、犬との心のふれあいという点もあると思います。

■盲導犬希望理由の実現度（現盲導犬ユーザー）



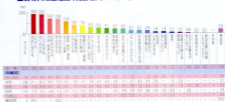
■盲導犬との生活に対する満足度



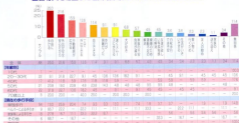
盲導犬に託される希望。

盲導犬ユーザーや以前盲導犬を使っていたことがある人が、なぜ盲導犬を求めたのかを調べました。理由はほぼ想像できるとおり、「いつでも自由に歩ける」「一人で気がねなく歩ける」「白杖歩行では不安・限界がある」「外出が安全・安心」「行動範囲を広げるため」などが高いポイントになりました。また気になるのは「自立できる」「社会参加できる」などの理由。誰だってできれば他人に頼らず歩路をけず自立して生活したいものだと思えます。ただ視覚障害者というハンデがその妨げになっている。そのハンデを克服するひとつの手段が盲導犬。盲導犬といっしょに、もっと自由に社会参加できるようになってほしいものです。

■盲導犬希望理由（現盲導犬ユーザー）



■盲導犬を希望した理由（盲導犬を申し込んだ視覚障害者）



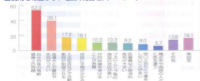
心のつながりが深まるほど、 別れが辛い。

盲導犬ユーザーと盲導犬の心のつながりは、ひとつ大きな課題をもたらします。盲導犬の寿命は約8年、犬の平均的な寿命が15年。当然、別れなければならぬ時がきます。盲導犬はペットとは違いますが、盲導犬ユーザーにとっては家族ともいえる存在になるため、別れは想像を超えるつらさなのでしょう。今後も盲導犬を希望する人は8割以上ですが、希望しない人が1割以上います。希望しない理由の半数は「自身の高齢や健康上の問題」ですが、4割近くの人が別れのつらさをあげています。私たち盲導犬訓練施設はこういう心理面でのケアも大きな課題として取り組んでいます。あなたが養い、問題です。

■今後の盲導犬の使用意向（現盲導犬ユーザー）



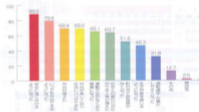
■使用を希望しない理由（現盲導犬ユーザー）



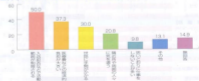
安全に歩けるのに、 お店に入れないことも。

安全に外出できて、生活にバリアがでて、健康にもなる。盲導犬本来はいいことづくめなのですが、外出できる反面で一部の盲導犬ユーザーが「入店拒否などで活動範囲が制限される」という問題を指摘しています。せっかく元気に外へ出ていき暮らしたいとしても入店拒否などによっては、気持ちも沈んでしまいます。これはほんとうに解消したい問題です。また自治体によっては盲導犬の医療費について補償がないためその経済的負担が大きいことも解決していきたい問題です。

■盲導犬を利用して良かった点（現盲導犬ユーザー）



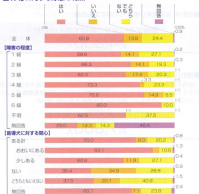
■盲導犬を使用しての問題点（現盲導犬ユーザー）



犬は好きですか、きらいですか。

盲導犬を使っていない視覚障害者の方たちに「犬」についての好意などをたずねた結果、6割以上の人が好意を持っていることがわかりました。また視覚障害の程度が軽いほど好意度は高い傾向があり、これは不意に吠えられたりじゃれつつかれたりなどの経験が影響しているのかもしれない。盲導犬の「吠えない・取っ手なし」などの性質を理解できれば、好意度はさらに高まるものと思われます。また、犬と暮らした経験は6割の人があると答えています。

■「犬」に対する好意の有無



■「犬」に対する好意の有無



よく知るほど、ユーザーになりたいくなる。

視覚障害者を対象に「盲導犬の使用希望」を調査すると、「いずれも希望する」「将来希望する」という人は意外に少なく、「希望しない」人が4割以上という結果が出ました。ところが、この結果と盲導犬についての「関心」「知識」の有無を照らしみると、盲導犬に対する関心が「おぼろげにある」人は2割強、盲導犬を「よく知っている」人の2割強が盲導犬の使用を強く望んでいます。全体に「関心」「知識」のない人は盲導犬そのものの性質やメリットを知らないために「わからない」「希望しない」という回答を寄せている場合も多いようです。盲導犬に関する情報発信も、もっと幅広く積極的に起こっていく必要があるようです。

■盲導犬使用希望状況／盲導犬に対する関心／盲導犬に関する知識



浮き彫りされた 盲導犬不足。

今回の日本財団による調査と調査データをもとにした盲導犬需要の推計は、日本の盲導犬不足の状況をはっきりと裏付けるものとなりました。現在日本全国で稼働している盲導犬は850頭いますが、盲導犬を必要とする人が約7,800人(推計)にも上るとのこと。これは安定的な財源をもたないのが盲導犬訓練施設にとってひじょうにきびしい現実といわざるを得ません。きびしい状況の中でさまざまに工夫して1頭でも多くの盲導犬を送りだそうと努力していますが、必要とするすべての人に行き届くにはまだ長い時間がかかるようです。



盲導犬が視覚障害者にもたらすメリットは計り知れないものであることも今回の調査は物語っています。行動半径が広がる、歩行の安全が確保でき、しかも早く歩ける、社会参加できる、生活にハリが出る。

さらに生活パートナーとして心の支えにもなっている。リーダーと共に生き、共に歩く。暮らしの中で楽がれたきずなは、盲導犬にとっても大きな喜びとなってくれるのではないのでしょうか。

また、調査では盲導犬不足の他に、入店拒否などの社会的環境の問題も指摘する結果となりました。私たち関係者も環境整備なおいっそうの努力を重ねたいと考えています。

◆この貴重な調査を実施していただいた日本財団様には心より感謝申し上げます。◆

盲導犬の希望者は、 約7,800人(推計)。

今回の調査結果をもとに現在全国の1級2級の視覚障害者で盲導犬を希望していると考えられる人の数が推計されました。

■推計A:盲導犬をいまずく希望する人の数

盲導犬をいまずく希望する人の合計
約4,800人

■推計B:潜在的な希望者の数

一般視覚障害者の中で、「盲導犬をいまずく希望する」と「盲導犬を近い将来希望する」の比率を算出すると、1級視覚障害者6.41%、2級視覚障害者2.21%となりました。これをもとに潜在的な希望者数を割り出しました。

潜在的な盲導犬希望者の合計
約7,800人



全国盲導犬施設連合会からのご報告

平成11年度も皆様のご支援のもとに、盲導犬育成の財源確保やデモンストレーションなどの広報活動、また訓練技術向上のために訓練士の研修会などを行いました。21世紀に向けてのバリアフリー社会の構築がめざられている今日において、当連合会はこれからも盲導犬の普及に全力で努めてまいります。どうぞよろしくお楽しみします。

平成11年度活動報告

INPHI/INPHI-ユー・エフ・シー等の 研修会等の開催

平成11年度も研修会の開催のもとに、盲導犬育成の財源確保やデモンストレーションなどの広報活動、また訓練技術向上のために訓練士の研修会などを行いました。21世紀に向けてのバリアフリー社会の構築がめざられている今日において、当連合会はこれからも盲導犬の普及に全力で努めてまいります。どうぞよろしくお楽しみします。

月別・地域別実施件数一覧

	北海道	北陸甲信	関東	近畿	中部四国	九州	計		
4月	0	0	0	0	1	2	0	3	
5月	1	1	11	1	4	1	0	1	20
6月	0	3	2	1	2	4	1	1	14
7月	1	1	6	0	1	2	0	1	12
8月	0	0	2	0	0	0	0	0	2
9月	0	0	0	0	0	1	0	0	1
10月	0	1	2	4	1	6	1	8	23
11月	1	1	8	0	3	5	1	2	21
12月	0	0	0	0	0	0	0	0	0
1月	0	0	1	0	0	0	0	0	1
2月	0	0	0	0	0	0	0	0	0
3月	-	-	-	-	-	-	-	-	-
合計	3	7	32	6	12	21	3	13	97

※平成11年度は7月7日～10日の4日間開催

歩行訓練研修会

平成11年7月7日～10日の4日間、盲導犬訓練士及び盲導犬歩行指導員のための研修会を、社団法人日本ウイリーフズ歩行指導員会と共同で開催しました。毎年開催のこの研修会も、今回の研修会は、視覚障害者の歩行指導員に対する歩行指導員研修会と併せて開催されました。



●パブリシティセッション

視覚障害者の盲導犬の歩行訓練は盲導犬訓練施設内に限らず、公共施設や商業施設等でも実施される場合があります。視覚障害者の盲導犬の歩行訓練は、盲導犬育成の財源確保やデモンストレーションなどの広報活動、また訓練技術向上のために訓練士の研修会などを行いました。21世紀に向けてのバリアフリー社会の構築がめざられている今日において、当連合会はこれからも盲導犬の普及に全力で努めてまいります。どうぞよろしくお楽しみします。



●盲導犬歩行訓練

盲導犬の歩行訓練は、視覚障害者の歩行訓練施設内に限らず、公共施設や商業施設等でも実施される場合があります。視覚障害者の盲導犬の歩行訓練は、盲導犬育成の財源確保やデモンストレーションなどの広報活動、また訓練技術向上のために訓練士の研修会などを行いました。21世紀に向けてのバリアフリー社会の構築がめざられている今日において、当連合会はこれからも盲導犬の普及に全力で努めてまいります。どうぞよろしくお楽しみします。



視覚障害者の盲導犬の歩行訓練は、盲導犬育成の財源確保やデモンストレーションなどの広報活動、また訓練技術向上のために訓練士の研修会などを行いました。21世紀に向けてのバリアフリー社会の構築がめざられている今日において、当連合会はこれからも盲導犬の普及に全力で努めてまいります。どうぞよろしくお楽しみします。

●平成12年度事業計画

INPHI/INPHI-ユー・エフ・シー等の 研修会等の開催

本会の研修会には、盲導犬育成の財源確保やデモンストレーションなどの広報活動、また訓練技術向上のために訓練士の研修会などを行います。21世紀に向けてのバリアフリー社会の構築がめざられている今日において、当連合会はこれからも盲導犬の普及に全力で努めてまいります。どうぞよろしくお楽しみします。





全国盲導犬施設連合会

会 社 / 結方登吉

〒151-0071 東京都渋谷区本町1-21-1 SH小林ビル8F (財)日本盲導犬協会内
TEL:03-3375-6285 FAX:03-3375-6390

●加盟施設一覧●

施設名	代表者名	所在地・連絡先
新設法人 北海道盲導犬協会	会長 水野大輔	〒005-0030 北海道札幌市南区南30条西8-1-1 TEL:011-582-8222 FAX:011-582-7715
新設法人 栃木盲導犬センター	理事長 石塚潤朗夫	〒321-0342 栃木県宇都宮市稲岡町1295 TEL:029-652-3885 FAX:029-652-3417
財団法人 日本盲導犬協会	理事長 朝田 茂	■本部/〒151-0071 東京都渋谷区本町1-21-15H小林ビル5F TEL:03-3375-6201 FAX:03-3375-6202
		■仙台事務所/〒980-0801 宮城県仙台市青葉区本町通1-4-15仙台市交通局4F TEL:022-225-1380 FAX:022-225-4780
		■神奈川訓練センター/〒223-0056 神奈川県横浜市港北区新吉田町6000-9 TEL:045-390-1295 FAX:045-390-1599
財団法人 中部盲導犬協会	会長 神作 博	〒432-0831 愛知県名古屋市中区栄1-1-70-4 TEL:052-382-6776 FAX:052-383-8882
財団法人 関西盲導犬協会	会長 船濱良夫	■事務所/〒616-8228 京都府京都市右京区堂野渡ノ上町2-6 TEL:075-881-9618 FAX:075-881-1224
		■訓練センター/〒621-0827 京都府亀岡市菅原町大岡山ノ谷18-2 TEL:0771-24-0323 FAX:0771-25-1054
社会福祉法人 日本ホワイトハウス	理事長 水塚泰弘	■法人本部/〒528-0642 大阪府大阪市鶴見区今津中2-4-37 TEL:06-6961-5321 FAX:06-6961-6268
		■行動訓練所/〒585-0053 大阪府南河内郡千早赤松村大字東辰1202-11 TEL:0721-72-0914 FAX:0721-72-0916
財団法人 福岡盲導犬協会	理事長 結方登吉	■訓練所/〒816-0062 福岡県福岡市中央区 瓦町3-3-59福岡市市民福祉プラザ内 TEL:092-714-3169 FAX:092-714-3176
		■訓練センター/〒819-1122 福岡県筑前市大字東 283-1 TEL:092-324-3169 FAX:092-324-3386

平成10年度 盲導犬供給数

平成10年度 盲導犬訓練施設年次報告書

社会福祉法人 日本盲社会福祉施設協議会
リハビリテーション部盲導犬委員会編より
(盲導犬訓練8施設会議)

※平成11年度の盲導犬供給数は、平成12年4月以降に集計されますので、
次号「チェック10号」でご報告させていただきます。

